

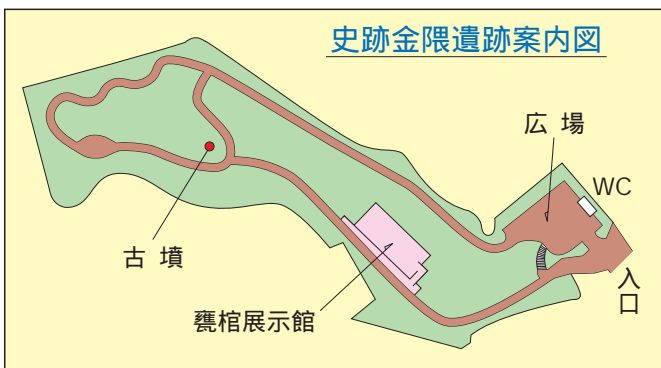
遺跡の整備

金隈遺跡を永久に保存し、また市民のみなさんが歴史を学び、自由を楽しめる憩いの場として利用できるように、昭和55年から公園や展示館の整備が進められ、昭和60年3月に完成、一般公開されました。

展示館は、遺跡に屋根をかけるような形で建てられていて、甕棺や人骨が発見されたままの状態で見学できるようになっているほか、復原された甕棺や出土した副葬品、パネル、ビデオなどにより遺跡の特徴などが学習できるようになっています。

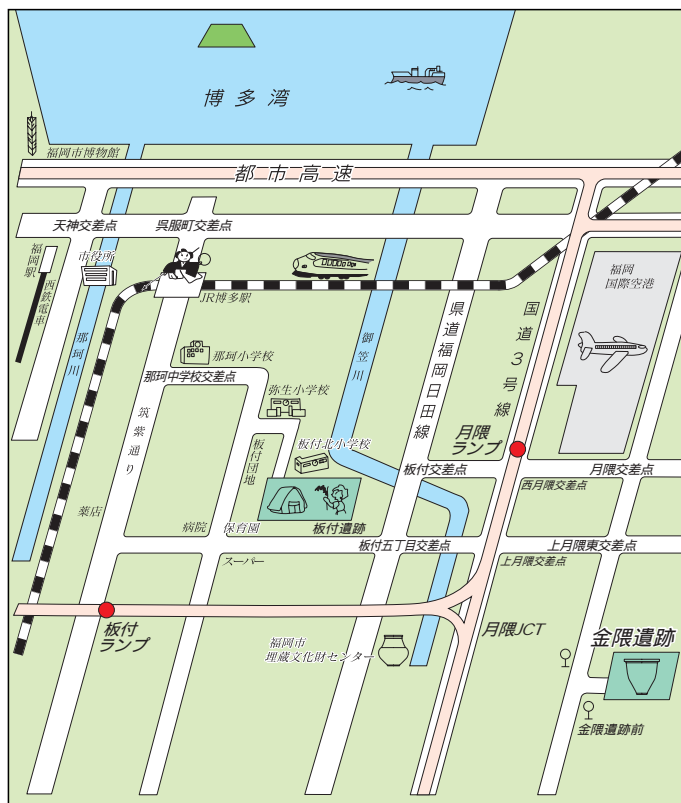
◇ 甕棺展示館 (鉄筋コンクリート平家建)
延床面積360㎡

見学できるお墓の数
甕棺墓 91基
土塚墓 34基
人骨 3体

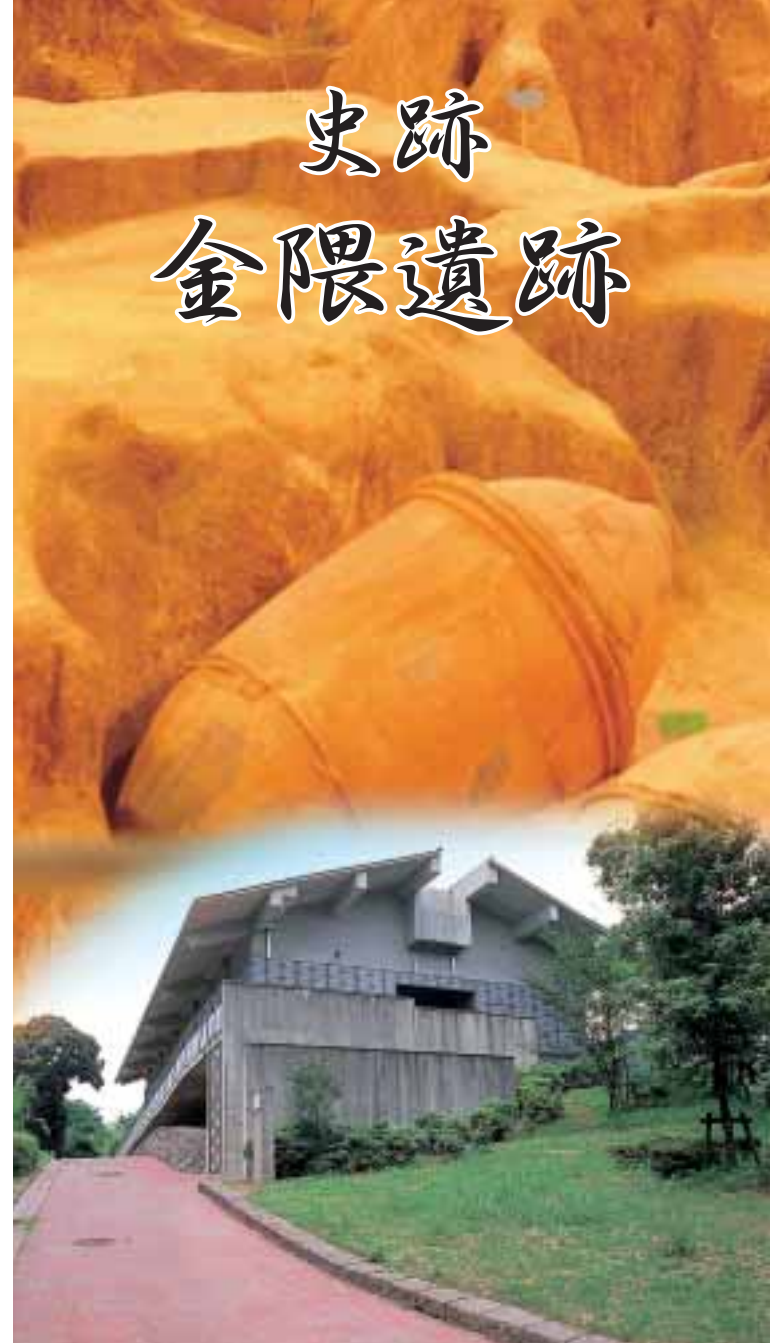


ご案内

所在地 福岡市博多区金の隈1-39-52
面積 12,227㎡
開館時間 9:00~17:00 (入館は16:30まで)
閉館日 12月29日~1月3日
入場料 無料
連絡先 福岡市教育委員会文化財管理課 ☎711-4666
金隈遺跡 ☎503-5484
交通機関 西鉄バス
④3金隈経由雑餉隈営業所(福岡空港前)ゆき約14分
「金隈遺跡前」下車 徒歩5分



史跡 金隈遺跡



福岡市教育委員会

遺跡の発見

金隈遺跡は、福岡平野の東を御笠川に沿って南北にのびる月隈丘陵のほぼ中央にあります。この近くには、日本で最も古い水田遺跡の一つである板付遺跡や奴国の中心といわれる須玖岡本遺跡など数多くの弥生時代の遺跡があり、金隈は多くの遺跡を代表するものです。

遺跡は昭和43年の春、桃畑の開墾作業中に発見されました。市教育委員会の調査の結果、非常に価値の高い遺跡であることがわかったため、昭和47年に国の史跡の指定を受け、永く後の時代の人々に伝えられることになりました。



発掘作業中の金隈遺跡

遺跡の概要

金隈遺跡は、弥生時代の人たちの共同墓地の遺跡で、弥生時代前期の中頃（西暦前二世紀）から後期の前半（西暦二世紀）までの約400年間という長い期間にわたって利用されていたものです。

金隈遺跡からは348基の甕棺墓（素焼の甕や壺をお棺として使用）と119基の土塚墓（土を長方形に掘って遺体を葬り板をかぶせるものと、木を組み合わせたもの～組合せ式木棺墓とがある）



金隈遺跡第1号土塚墓

と2基の石棺墓（石を長方形に組み合わせ、その中に遺体を葬るもの）が発掘されています。最初に土塚墓が作られ、その後に甕棺墓、最後に石棺墓が作られたようです。

金隈遺跡では、甕棺墓が最も多く作られていることから、甕棺をつくる技術が発達していたのでしょう。



金隈第140号甕棺

遺跡の特徴

金隈遺跡からは、甕棺墓が最も多く発掘されていますが、右の表を見ると弥生時代中期に甕棺墓制が大に行われたことがわかります。また、成人用と小児用の甕棺の数を比較すると小児用が圧倒的に多く、小児の死亡率の高さを示しています。

時代	墓数		計
	小児用	成人用	
前期	22	7	29
中期	184	121	305
後期	2	3	5
不明	6	3	9
合計	214	134	348

遺跡での出土人骨は136体で、これらの人骨を調べた結果、死亡した年齢のピークは、未成年で1歳から6歳（小児）、成人で40歳位（熟年）となっています。また、男女の死亡年齢の差を見ると、60歳以上まで生きた人が女性のみで、男性の死亡率の高さがうかがえます。

平均身長は、男性が162.7cm、女性が151.3cmで、縄文人と比較すると顔も面長になり、身長も急に高くなっています。このことは、北部九州及び山口県西部にわたる弥生人全般の特徴とよく、朝鮮半島と混血が行われたのではないかと考えられています。これらの弥生人が戦前までのどの日本人よりも平均身長において一番高かったことは大変興味もたれます。

年齢	年齢(歳)	男性	女性	不明	計
未 成 人	乳児(0~1)	—	—	6	6
	幼児(1~6)	—	—	22	22
	小児(6~12)	—	—	5	5
	若年(12~20)	—	—	2	2
	不明	—	—	2	2
成 人	成年(20~40)	19	14	2	35
	熟年(40~60)	19	26	1	46
	老年(60~)	0	4	0	4
	不明	4	2	8	14
計		42	46	48	136

遺跡の副葬品

お墓には、葬られた人が使用していた武器、祭事の道具、装飾品などが副葬品として供えられていることがあります。

北部九州の弥生時代のお墓からも中国や朝鮮半島から渡ってきた青銅製の鏡、剣や硬玉製の勾玉、管玉などのほか、南の島から渡ってきた貝の腕輪などが出土しています。このことは、弥生時代に中国大陸と南方文化の交流があったことを物語っています。

金隈遺跡では、種子島からオーストラリアまでの海中にしか住まないゴホウラという貝で作った腕輪が発見されました。その他にも石剣、石鏃、首飾り用の玉もみつかっています。



ゴホウラ製の貝輪とゴホウラ貝

これらの副葬品をもった人はムラやクニの長であったといわれていますから、金隈にもムラをまとめる長がいたことがわかります。



貝輪をつけた現代男性



貝輪をつけた人骨（金隈第103号甕棺）